

放射線のリスク

1

外部被ばくと内部被ばく 2

被ばく量を把握することの重要性 2

ベクレルからシーベルトへ 5

空間線量と実効線量の意味を考える 10

しきい値ありとしきい値なし 21

LSS(寿命調査)から分かること 21

ICRPの見解 25

1000ミリシーベルト以下をめぐるわが国での議論 31

代理戦争の様相を呈するしきい値問題 35

放射線発がん組織幹細胞の役割——丹羽太真さんにきく 44

幹細胞のニッチをめぐる競争を考えることが重要 45

過剰相対リスクは、なぜ線量に関し一次の関係になるか 48

生活習慣を変えると、放射線のリスクが変わる 51

放射線影響の未然防止のためには、LNTを考えるしかない 55

低線量率の問題 60

原発事故のリスク 69

原発事故のリスク(放射線のリスク) 70

原子炉から大気への放出 70

食物による摂取 74

外部被ばく線量の大きさ 82

ヨウ素131と甲状腺 90

除染と帰還 107

現状 107

国直轄事業地域での除染事業の概要 110

除染目標値 118

仮置き場と中間貯蔵施設 126

帰還と移住 128

市町村事業区域の問題 130

除染目標値とリスク 131

除染目標値 131

安全とリスクとの間 136

除染の現場から——半澤隆宏さんにきく 140

福島の「帰還か移住か」を考える——経済学の視点から

まずは小学校の除染から 141
 民家から桃畑、山林での除染 144
 伊達市の除染がなぜ先行したか 146
 「サイエンス」と「メンタル」のはざま 147
 説明会八〇回——でも誤解 149
 除染の実際 その一 152
 除染の実際 その二 155
 ようやく「仮置き場」ができた 157
 なぜ、仮置き場が見つからないのか 160
 その後の除染 162
 その後の除染 Aエリア 164
 その後の除染 Bエリア、Cエリア 165
 これからの除染 167
 いま、改めて除染とは何か 169
 除染することが目的になっている？ 171
 column 除染はしたけれど…… 173

「対談」飯田泰之 vs. 中西準子

原発事故と研究者の責務 176

「べき論」ばかりが繰り返される
 マネージメントへの関与をすべきか 178
 自由と不自由 187
 ふたつの「しきい値」 192
 「除染」しか選択肢はないのか 195
 「原発立地」という現実 199
 「人のため」の不在 201
 集団移転か、個人補償か 202
 損害と国民負担 207
 東電の責任と国民負担 213
 固定資産調査から見えてくるもの 217
 「帰還か移住か」を選択可能にするために 227
 「移農」の困難をどう超えるか 230
 個々人の人生設計のために 233
 新しい生活を停滞させるもの 235

化学物質のリスク管理から学ぶこと

リスクトレードオフ 240
 なぜ、DDTが禁止されるようになったか 242
 化学物質のリスク 249
 リスク管理はどうあるべきか 256

リスクを選んで生きる

275

レーガン政権下での化学物質規制
日本ではどうなっているか 266
なぜ、「ミリシーベルト」なのか？ 268

「対談」上野千鶴子 vs. 中西準子

理系女性研究者のサバイバル
本物の専門家は排除された 279 276

「安全だ」を繰り返し、思いこんだ東電
科学者はどこまで責任を持つべきか 285

責任転嫁の構造 287

リスク・トレードオフを考える 289

リスクはなくならない 294

あとがき

299